

令和8年度

「運営に関する計画」



大阪市立神津小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の課題として、学力と自己肯定感の向上があり、今年度も継続して取り組んでいく。

学力の向上においては、一昨年度まで4年間国語科を研究教科とし、昨年度は、学級活動を校内研究教科として取り組んだ。学級活動で学んだ主体的・対話的な話し合い活動を、各教科の学習場面でも取り入れ、学力・自己肯定感の向上へとつながるように日々努めた。また教員一人ひとりが研究授業や公開授業を行い、学校として授業力向上へ向けた取り組みを継続してきた。その成果もあり、小学校学力経年調査における標準化得点において4～6年生で、大阪市平均を上回ることができた。また、同一母集団における経年比較においても、4～6年生の算数、4・5年生の国語、5・6年生の英語など、昨年度の結果を上回ることができた。

課題として、学力経年調査において一定の成果を表すことができたが、全国学力状況調査の結果において大阪市平均を上回ることができていない。

個々の課題解決や、主体的・対話的な学びを継続して深めていく。学校教育アンケートの「授業がわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は昨年度93%であった。よりわかりやすく、学ぶ楽しさを感じられる授業力向上・授業改善のために、教員への研修や実践の交流等に取り組んでいく。放課後学習、ICT機器・タブレットを活用した授業、専科指導の充実など、児童の学習環境のよりよい改善も進めていく。

自己肯定感の向上の課題では、学力経年調査アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の問いに対して肯定的な回答が79.6%【昨年度81.1%】、学校教育アンケートでは78%【昨年度83%】であった。昨年度より、学級活動を通して、児童間のよりよい交流に取り組み、自己肯定感を高める研究・実践をおこなってきた。アンケート結果として向上には至らなかったが、自分の意見を伝えられる場面、互いの意見を聞き合える場面が各学級にて多くみられるようになってきた。また他の質問項目より、自己効力感(やればできる)、自己有用感(誰かの役に立っている、周りから必要とされていると感じる)が高まってきているアンケート結果が出ている。今年度も、引き続き学級活動を研究し、児童がよりよい交流の中で、互いのよさを認め合い自己肯定感が高まる取り組みを進めていく。

その他、一昨年度より取り組んでいる規則正しい生活習慣を身に付けさせるための、睡眠時間やスマホ等の使用時間についてなどの生活チェックを今年度も継続して実施し、心身の健康を図り、学習意欲に結び付くように取り組んでいく。『心の天気』や相談機能などを継続して活用し、一人ひとりへのていねいな声かけや安心安全につながるよりそった関係構築へ役立ていく。

学校ホームページ等による情報発信、保護者・ホーム、地域、関係諸機関等との連携を引き続き深め、子どもたちを取り巻く環境の安心安全を『Team神津』として進めていく。

最後に、よりよい教育を進めていくためには、教職員が心身ともに健全であることが大切であり、時間外労働の軽減・休暇の取得等を促進させるなどの働き方改革アクションプランを推進していく。昨年度は、教職員の業務改善・軽減を進めることができた。今年度も引き続き、業務改善への工夫と教職員の意識改革を進め、教職員が心身ともに健全で、子どもたちのよりよい教育環境づくりに取り組めるようにしていく。

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.3%以上にする。

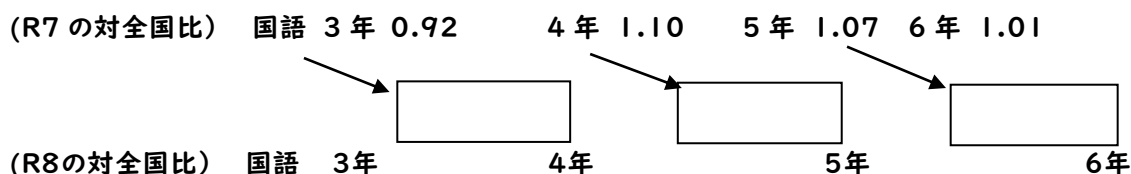
R6 87.1% R7 82.0% (3年 84% 4年 97.5% 5年 65.2% ※昨年度の数值)

- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 81.2%以上にする。

R6 81.1% R7 79.6% (3年 90% 4年 77.5% 5年 67.4% ※昨年度の数值)

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも 0.01ポイント以上向上させる。



- 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

参考年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻におきていますか」に対する R7校内調査 児童学校アンケート結果で肯定的に回答した割合 **79%**
大変思う 42%、思う 37%

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

【ICTの活用に関する目標を設定する】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 66.6%以上にする。

※R7 66.5%

- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の時間外労働の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 21 時間 50 分以下にする。

※R7 21 時間 55 分 (2月末時点)

- 児童 1 人あたりの年間貸し出し冊数を前年度より上回る。

※R6 53 冊⇒R7 全学年平均 50.3 冊【ICTの活用に関する目標を設定する】

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立神津小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.3%以上にする。 R6 87.1% R7 82.0% (3年84% 4年97.5% 5年65.2% ※昨年度の数値)</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.2%以上にする。 R6 81.1% R7 79.6% (3年90% 4年77.5% 5年67.4% ※昨年度の数値)</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>課題のある児童と重点的に関わり、毎日、その児童の状態をチェックし、前向きな感情の共有・感情のラベリング支援を通じて児童の心を耕すように努める。</p>	
<p>指標 毎日朝と帰りに心の天気を活用する。さらにいいところ見つけも活用し、学級の様子を共有する。課題の早期発見と課題に応じた対策を行うことができるようにする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の学習時間をはじめとして、学級指導等あらゆる機会を通じて自己肯定感を高めるような取り組みを行う。</p>	
<p>指標 各学年が朝の会や終わりの会、学級活動等の取り組みの中で、自己肯定感を高める活動を行い、学期ごと(7月、11月、2月)に学校全体で交流する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会活動をはじめとする学校教育活動を通じて、児童が主体的に活動できるような集団づくりに取り組む。</p>	
<p>指標 児童が主体的に楽しく取り組める活動を各学年2回、学校全体として10回以上行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度に向けて

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.01ポイント以上向上させる。</p> <p>(R7の対全国比) 国語 3年 0.92 4年 1.10 5年 1.07 6年 1.01</p> <p>(R8の対全国比) 国語 3年 4年 5年 6年</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>参考 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻におきていますか」に対する R7校内調査 児童学校アンケート結果で肯定的に回答した割合 79% (大変思う 42%、思う 37%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童間での意見交流の場を設定し、班活動やペア活動等での話し合い活動を積極的に取り入れる。 基礎学力が定着するよう、反復練習や個に応じた指導を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートにおいて、「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしています。」と肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。 令和7年度 85% 月1回「漢字の日」を設定して前学年の漢字を中心に復習したり、漢字検定を活用したりすることで、漢字の定着を図る。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の授業力向上に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業、研修会等を実施する。 校内アンケートにおいて、「授業はわかりやすいです。」と肯定的に回答する児童の割合を90パーセント以上にする。 令和7年度 93% 	
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のよりよい生活につなげるための取り組みを行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に2回「生活振り返り週間」を実施し、「早寝」ができたと答える児童の割合を前年度より向上させる。 令和7年度 66% 体力保持増進のための場を設け、校内アンケートにおいて「学校ではよく体を動かそうとしています。」と肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 令和7年度 82% 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度に向けて

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66.6%以上にする。 <u>※R7 66.5%</u></p> <p>○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の時間外労働の1か月あたりの平均時間外勤務時間を21時間50分以下にする。 <u>※R7 21時間55分（2月末時点）</u></p> <p>○児童1人あたりの年間貸し出し冊数を前年度より上回る。 <u>※R6 53冊⇒R7 全学年平均 50.3冊</u></p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 さまざまな教科でICTを活用した学習を推進する。</p> <hr/> <p>指標 児童の実態に応じて、さまざまな教科で週2回以上（年間80回以上）学習者用端末を活用した学習を行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の労働時間の軽減を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画会の前に部会を設け、複数人で案件を確認し、全体の会議の時間をできるだけ短くする。 ・ゆとりの日を週1回設け、勤務時間を意識する。 ・学習参観前日や宿泊行事前には、ノー会議デーを設け、放課後の時間にゆとりをもつ。 ・校務の情報化を進めていく。 	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 読書記録をつけ、読書をする習慣をつける。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「本を読むのが好きです」の項目で肯定的な回答の割合を昨年度より1ポイント以上向上させる。 <u>R6 74%⇒R7 69%</u> ・読書や調べ学習等で図書室を活用する。 ・昼休みの図書館開放を活用する。 ・読書した本や、絵本のくにくの方に読んでもらった本を記録する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度に向けて